



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第46号 R3. 5. 15

「GIGAスクール構想」の実現に向けて ～1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」～

国の掲げる「GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想」により、本町の小中学校に通う子どもたちに1人1台タブレット端末が配布されます。当面は、普通の授業で活用し、子どもたち一人ひとりの学習の状況に合わせたきめ細やかな学びの実践につなげます。

GIGAスクール構想とは？ (文部科学省HPから)

- ◆1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、**多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する**
- ◆これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、**教師・児童生徒の力を最大限に引き出す**

今後、環境を整備していき「子どもたちの学び」が変わっていきます！

一斉授業

教師は授業中でも一人ひとりの反応を把握でき、子どもたち一人ひとりの反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能になります。



個別学習

児童・生徒が同時に別々の内容を学習でき、個々人の学習履歴を記録することで、一人ひとりの学習状況に応じた個別学習が可能になります。



協働学習

一人ひとりの考えをお互いにリアルタイムで共有し、児童・生徒同士で双方向の意見交換が可能になり、多様な意見にも即時に触れられます。



令和3年度 第1回豊能町小中一貫教育推進研究会 保幼小中合同研修会 (WEB開催) その②

前号でもお知らせいたしましたが、4月21日に保幼小中合同研修会をWEBで開催しました。研修会を通して、先生方が「どんな子どもを育てたいか」「新しい学校ではどのようなことに取組んでみたいか」をじっくり考える機会になりました。

研修会で学んだことを日々の教育活動に生かし、新しい学校づくりに取り組んでいきます。

◆先生方のふり返しシートより～一部抜粋～◆

- ・担任だけでなく、様々な立場の人が1人の子どもに関わり、チームで子どもを見ることで、担任だけでは気づけない気づきがあると思う。
- ・小学校で良く取り組まれているきょうだい学級を、教え合いや協働行事で、小と中とでも取り組めるのではないかと。リーダーの育成だけでなくつながりの強さにもなるのではないかと。
- ・どうしてもクラス単位での活動が多いので、異年齢での活動を増やしたり、戸外遊びでも、縦割りペアで遊ばせたりしたい。そして、遊んでみた感想等を聞き取って、子どもの言葉を保護者にお便りでお知らせするなどして、保育所・子ども・保護者が共通の認識を持てるようなことをしたい。
- ・実際に統合から義務教育学校となった学校の具体的な話を聞くことができ、ようやく義務教育学校が身近に感じられ、前向きにとらえられた。
- ・小中一貫教育や9年間の学びについて概念的なことだけでなく、実際にどのような効果があったのかなど、実践や研究に基づいてお話されたのでとても分かりやすかった。東地区は準備時間があまりない中で形が先に導入され不安や課題も目に付くが、“とにかくやってみる”という勢いも大切かなと思う。

令和3年度 第1回吉川中学校区学校運営協議会設立準備委員会 WEB開催



5月12日、第1回吉川中学校区学校運営協議会設立準備委員会をオンラインで開催しました。昨年度立ち上げた準備委員会ですが、今年度は新たに学校園所の先生方も委員として入っていただきました。今年度は、7回の開催を予定しています。



今回の主な内容は、「学校運営協議会の概要説明」「昨年度の活動状況と今年度の計画について」「学校運営協議会の規則(案)について」「豊能町のめざす保幼小中一貫教育について」でした。

◆新しい学校づくりについて、顧問の初田幸隆先生からご助言いただきました。

一番大事なことはどんな子どもを育てていくのかということ。そのためにどんな力を育むのか、その力を育むためにどういう仕組みがあるのか、その仕組みを働かせる時に、保護者や地域住民の方々にどう協力をしていただけるのか、ということを考えることになり、ここではじめて学校を中心にみんながつながることになります。ですから、どのような教育を実現するのかについては、まず、学校が主体となって考えていく必要があります。教員は学校教育のプロフェッショナルです。先生方にはぜひプロとしてのプライドをもち、教育に夢を託しながら、学校づくりに向き合っていただけたらと思います。